



京都大学

設置期間 2014年4月～2026年3月

寄附者 株式会社日本パブリックリレーションズ研究所

「Hyper-globalizationを生き抜くパブリック・リレーションズ」



教員

教授 山田 忠史

名誉教授 小林 潔司

特命教授 井之上 喬

日本パブリックリレーションズ研究所 ゲスト講師

鈴木 孝徳

横田 和明

林 永健

概要

地球規模で変化が進み、グローバリゼーションがハイパー化する中、経済、技術、文化に対して広範で優れた知見を有する日本への世界の期待と関心は相変わらず高いものがある。

このハイパー・グローバリゼーションについて井之上は、「①経済・貿易（ビジネス）と②SNSによるヒューマン・コミュニケーション、③IoT、ビッグデータ、AIとりわけ真偽を包摂する生成AIの著しい変化によって引き起こされるシンギュラリティに繋がる破壊的技術革新の3つの要素から構成されるこれまでにないグローバル化の流れ」と定義している。

また、ハイパー・グローバリゼーションは、分野を越えた多様なビジネス活動と真に国際的な企業の登場によるもので、20世紀型とはまったく異なる新しい環境を創出している。

個人や組織体は、ハイパー化の進展とともに好むと好まざるとにかかわらずフェイクニュースを含む様々な情報の渦に巻かれている。とりわけコロナ禍にあって、混沌とした社会で目的達成するには、外部環境の変化を読み取り、ステークホルダーとの良好な関係構築を行うリレーションシップ・マネジメントを主体とするパブリック・リレーションズ（PR）が不可欠となる。

この講義では、21世紀最強のソフトウェアともいえるパブリック・リレーションズ（PR）の概念や頻発する企業不祥事に備える危機管理の在り方、倫理観と双方向性コミュニケーションに支えられた自己修正モデルなどにつき詳しく、かつ分かりやすく伝えていく。

教員紹介



井之上 喬 特命教授

専門分野

パブリック・リレーションズ

担当科目

パブリック・リレーションズ論

Message

パブリック・リレーションズ（PR）は、ハイパー・グローバリゼーションが進化する社会にあって企業や組織体が目的や目標の達成に不可欠となるステークホルダーとのリレーションシップ・マネジメントのための最適な手法です。また、PRプロフェッショナルに限らず、将来、企業・組織の経営を担うエグゼクティブにとって必須となるスキルです。

出版物

〔自著〕井之上喬（2006/2015/2024）『パブリックリレーションズ』。東京：日本評論社、同中国語版（2010/2018）。

北京：東方出版社、井之上喬（2009）『「説明責任」とは何か』。

東京：PHP研究所、Inoue, T.（2018）。

Public Relations in Hyper-globalization. London：Routledge

〔共著〕Inoue, T.（2003）. An Overview of Public Relations in Japan and the Self-Correction Concept, In K. Sriramesh, & D. Vercic (Eds.), The global public relations handbook: Theory, research, and practice. (pp.68-85). New Jersey: Lawrence Erlbaum Associate. Inoue, T.（2019）. A New Public Relations for Corporation in the World of Hyper-globalization, in 3rd edition; in The Global Public Relations Handbook: Theory, Research, and Practice (pp. 139-148); Edited by Krishnamurthy Sriramesh, Dejan Verčič; New York: Routledge.

〔監修〕井之上喬（2001）『入門・パブリックリレーションズ』。

東京：PHP研究所

同韓国語版（2003）. ソウル：YangMoon 出版